

輝け！シン尾花沢中

第84号

令和7年

9月10日

真理のとびら うちひらく 希望にもえる わが学園

少年の主張出場 3年：遠藤光一郎さん

9月3日（水）少年の主張尾花沢大石田大会で「努力賞」になった
遠藤光一郎さんの発表内容を紹介します。



夢を探す前に、自分を知る

皆さんは「将来の夢は何？」と聞かれたことがありますか。僕は今でも、家族や友達、先生など、いろいろな人からこの質問を受けます。けれど、正直に言うとそのたびに困ってしまいます。

今年、僕は中学3年生、受験生になりました。これからどんな高校に進むのか、どんな道を選ぶのか考えなければならない時期です。でも「将来の夢は何か」と問われると、はっきりとした答えを出せない自分に、焦りを感じたり、少し情けなく思ったりすることがあります。

去年開催されたパリオリンピックでは「小さい頃の夢が叶いました」と話す選手たちの姿を、何度もテレビで見ました。また、本を読んでいたときにも、「〇〇歳のときにこの職業に就くと決めました」と書いてあるのを目にして、「自分はどうなんだろう」と、心が動揺したこともありました。

夢に向かって努力している人の姿はキラキラと輝いて見えます。まっすぐな目標に向かい、ぶれずに頑張っている姿は、憧れの気持ちさえあります。

たしかに、夢を持つことは大切です。夢があることで目標ができる。努力を続ける力にもなるし、「夢のためなら頑張れる」と思えることもあるでしょう。

でも、僕は今、夢がなくてもいいのではないかと考えています。

小学生のとき、2分の1成人式がありました。そのとき、まだ自分の夢が見つかっていなかった僕は、周りの友達に合わせて「夢は〇〇です」と発表しました。けれど、その言葉は本当の気持ちではなく、どこか嘘をついているような気がして、モヤモヤしたのを覚えています。その日の帰りの会で、担任の先生が言いました。「夢を持つことは素敵だけれど、夢は変わるものでもある。だからこそ、今を一生懸命に生きて、いろいろな経験をして、自分の可能性を広げてほしい」と。

当時はよく分からなかったその言葉も、ようやく、少しずつ理解できるようになってきました。

夢というのは、無理に決めるものではなく、出

会っていくものなのかもしれない。

自分の目の前にある勉強や部活、家の手伝い、友達との関わりの中で「こんなことをしていると楽しいな」と感じたり、「こんな人になりたいな」と思ったりする。そんな瞬間の積み重ねが、やがて「夢」に変わっていくのではないかと僕は思います。

中学生の今だからこそ、まだ知らない世界がたくさんあります。社会のこと、仕事のこと、人との関係……これから先にある出来事との出会いの中に、自分がやりたいことが見つかるかもしれません。

だから僕は、焦らずに、一つひとつの経験を大切にしていこうと思います。

もし、誰かが「まだ夢がない」と悩んでいたら、こう伝えたいです。

夢は、形が見えないときでも、心の中で静かに育っていることがある。自分が何にワクワクするか、どんなときに「やってみたい」と思うのか——そうした気持ちを見逃さずにいれば、きっと出会えるはずです。

夢を見つけるために大事なものは、他人と比べることではなく、自分と向き合うこと。夢を追いかける準備は「夢を持つ」ことよりも前に「自分を知る」ことから始まるのではないのでしょうか。

僕はこれからも、たくさんの経験を通して、自分に合ったものを見つけていきたいです。たとえ時間がかかっても、自分の言葉で「これが夢です」と言える日を目指して。

「夢を持つことは大切か？」

この問いに対して、僕の今の答えは、こうです。

「夢は大切だ。けれど、焦らなくていい」

夢は、無理に見つけるものではなく、出会い、育てていくもの。そして、自分が変わることで、夢も変わっていくもの。

夢を急がず、今を一生懸命生きること。

それこそが夢への第一歩なのではないのでしょうか。

自分を知ろうと努力する中で、夢・志が自然と生じてくることを再認識しました。

【文責：校長 工藤雅史】